

# ベロナの悲劇

作・小佐部明広

【登場人物】

《タギ一族》

モンタ国王（亡き族長タギ二世の弟）  
マーキユ王妃（ロンの母／モンタの妻）  
ロン王子（タギ二世の息子）

《キユレト一族》

キユレト二世（ジュリの父）  
ターピ（ジュリの姉）  
ジュリ（キユレト二世の娘）  
ボルト（キユレト二世の甥）

《ベロナの国の民》

ベーリオ（ロンの親友）  
パリー（自警団女団長）  
エスカラ（自警団副団長）  
レスロ（霊媒師）／役者1  
サムソ（なんでも屋）／役者2  
グレゴ（酒屋）／役者3

《旅一座》

座長

【場所】

美しい国ベロナ

第一幕

1. ベロナの広場

音楽。

座長、役者たちが登場。

座長 美しき国ベロナのみなさま、

そして、数年前よりこのベロナの地を統治する

偉大なるブラス將軍、

本日は、ここにお集まりくださり心より感謝申し上げます。

私たちは悲劇専門の旅一座。

古今東西多種多様の悲劇を取り揃えております

わたくしたちが本日上演いたしますは

偉大なるブラス將軍のために

この度書き下ろしました歴史劇。

歴史劇と申しましたが、たかだか数年前のお話。

この美しきベロナの地に偉大なるブラス將軍が進軍する前、

この地はタギ一族が支配しておりました。

その頃やはりわれらはこのベロナの広場で芝居を上演し、

次の国、次の国と旅を続けておりました。

そんな折、私たちのもとに

ある一人のベロナの民がやってきたのです。

瀕死のベーリオ登場。

ベーリオ ようやく見つけた。先日ベロナで芝居を上演した一座の座長ですね。

座長 ええ。かなり弱っているようですが。

ベーリオ 私の命が尽きる前にベロナで起こった悲劇を伝えさせてもらいたいのです。

座長 なにがあったのです。

ベーリオ ベロナは攻め落とされました。西の国の將軍によって。

私は命からがら逃げてまいりましたが、行動をともしていた者は息絶えてしまいました。

座長 詳しくおきかせください。

ベーリオ この話を芝居にしてくれるのなら。

座長 約束しましょう。

ベーリオ 事の始まりは、ある一族の長が命を落としたことです。

その息子ロン王子は私の親友だったので、そのロン王子も、

ベロナの国も、最後には悲劇的な結末を迎えたのです。

音楽。

葬式の間が再現される。

ロン お父様！ お父様！

マーキュ 静かになさい。

ロン お母様は内臓が引き裂かれるような思いにならないのですか！

マーキュ 人間はいつか死ぬの。叫んでばかりで死人の魂は癒され

ないわ。

モンタ さあ、骨を焼いてくれ。  
ロン やめてくれ！ やめてくれ！

燃え盛る棺。  
叫ぶロン。

## 2. 当時のベロナの広場

踊り子たちが踊っている。

モンタ新国王、キュレト二世、マーキュ王妃、ロン王子が現れる。

モンタ 諸君。われわれタギ一族の族長、そして我が兄であるタギ二世は天に召された。諸君のなかには、現国王、キュレト二世が事故に見せかけて殺したと噂する者もある。しかし、それはまったくのデタラメだ。なぜなら、現国王キュレト二世は、われわれタギ一族に、再び王位を譲るように申し出てきたからだ。(聴衆のざわめき) というのも我々は、この美しきベロナの地の平和のために神に伺いを立て、3つの神託を受けてきた。その神託のとおり、現国王キュレト二世は私に王位を譲り、私は兄の妻を王妃として迎え、西の国の襲来に備えるよう自警団に協力を得たのだ。西の国は5年前、我が兄タギ二世が攻め落とした国で、その国の王は我々に忠誠を誓っていたが、その息子が血気盛んで、我々への復讐を企んでいるとの噂がある。(聴衆のざわめき) 西の国の力などたかだか知れているが、準備をするに越したことはない。野蛮な西の国を蹴散らし、美しき国ベロナのさらなる繁栄を願おう。今日

は戴冠式だ。新国王就任のめでたい日。おおいに盛り上がってくれ。ベロナ万歳。

聴衆 ベロナ万歳！

モンタ 向こうの市場でしばしご歓談を。ありがとう。

聴衆は盛り上がり、去っていく。

モンタ どうしたロン。めでたい日に暗い顔をするのは罪だぞ。

ロン (小声で) 近親相姦の罪よりは軽い。

モンタ 何を言った？

ロン 人は何も考えずに浮かれているときに最も幸せだと思いますが、僕はその才能に恵まれなかったようです。

モンタ その分皮肉の才能には恵まれたようだな。

マーキュ ロン、あなたのお父様だってそのお父様を亡くし、そのお父様はそのまたお父様を亡くし、それでもそれを乗り越え立派に生きていったのよ。

モンタ ロン、ここに宣言するが、俺の次に王位を継ぐのはお前だ。

俺は兄貴同様、いやそれ以上にお前を愛している。だからお前も俺の戴冠式を心から祝ってくれ。

ロン できるだけお言葉に従いましょう。

モンタ さて、俺たちはパレードの準備だ。行くぞ。

モンタとマーキュは去っていく。

ベーリオがいる。

ロン そこにいるのは誰だ。

ベーリオ 殿下の忠実なるしもべ、ベーリオです。

ロン ベーリオか。しもべなんて大袈裟な。親友じゃないか。市場へは行かなかったんだな。

ベーリオ 浮かれた場は性に合いません。

ロン 願いをきいてもらえないか。

ベーリオ 内容によります。

ロン 俺を殺してほしい。

ベーリオ 僕が納得する理由があれば。

ロン 素晴らしい男だった。

ベーリオ お父様ですか？

ロン 数少ない兵で西の国を攻め落とすほど聡明で勇猛果敢な男。

虫が近寄るのも許さぬほどお母様を愛しておられた。なのに、お母様は、ひと月と経たぬうちに、あのこざかしい虫けらのベッド

へと潜り込み、毎晩不潔な儀式を行っている。

ベーリオ お父様の弟と。

ロン やつを王にするくらいなら、くじびきに政治を任せられた方がまだマシだ。

ベーリオ しかしそんなに長生きはしません。

ロン 死ぬまでにこのベロナの地を根こそぎ腐らせる。

ベーリオ 街で気晴らしでもされてみては。

ロン この傷を癒せるものがあるか。

ベーリオ よく食い、よく眠り、女に癒されれば少しはマシに。

ロン どこぞの馬の骨に言われたならぶん殴るところだが、お前がそういうならそうしてみよう。たまには欲のままに生きるのも悪くないかもしれない。

ベーリオ 行きましよう。

ロン ああ。

二人、退場。

### 3. 酒場

座長、エスカラ自警団副団長、サムソ、グレゴ登場。

エスカラ 今日はめでたい日です、好きなだけ飲んでいってください。い。なあグレゴ。

グレゴ ええ、好きなだけ飲んでいってくださいな。(みんなに酒をついでいく)

座長 いやありがたい、しばらく飲んでなかったものでして。

サムソ ほかの役者のみなさんもついてきてくださればよかったです。

座長 役者連中は酒よりも睡眠のようです。

グレゴ お芝居はいつ上演なさるんです？

座長 一ヶ月ほど滞在して、その間に何回か。

サムソ お芝居なんて久しぶりです。

グレゴ どんなお芝居をやるんです？

座長 うち悲劇専門でしてね。大衆喜劇だの人間賛歌だの、私に言わせればああいったものは馬鹿げていますよ。人間も社会も結局は破滅へ向かう。悲劇こそが現実を映しだす鏡になるんですよ。

エスカラ 実に共感しますね。私も悲劇が好物でしてね。

座長 それはいい。実際、悲劇が好まれる社会こそ健全な社会です。

平和な時ほど悲劇が好まれ、悲惨な時ほど喜劇が好まれますから。グレゴ さて、杯は満たされました。悲劇一座の座長と、サムソ そしてなにより、新国王の就任に、

一同 乾杯！（飲む）  
エスカラ 実にめでたいね、ようやくモンタ様が国王に就任なさった。

座長 この国には初めて来たんですが、なにやらふたつの一族が対立しているとか。

サムソ 私たちは親がここベロナに移り住んできたんですが、グレゴ もともとは自分の国を捨てたタギとキュレトという二人の男とその家族がこの地を開拓し集落をつくり、サムソ タギの母国の昔話に登場する美しい国から「ベロナ」という名前を付けたそうです。

グレゴ ベロナには、各地から自分の国に不満をもつ人間たちがその噂をききつけ学者や医者、専門家なんかも多く移り住み、サムソ 国民が協力しながら少しずつここベロナを大きくしていったんです。

グレゴ ただ、タギとキュレトはあまり仲が良くなかったようで、サムソ 国民も様子を見ながらタギについていたりキュレトについていたり始めました。

グレゴ その息子、タギ二世、キュレト二世の世代になると、表面上は仲が良く見えますが、実際の仲は悪化したよう。

サムソ はじめ国王の地位にはタギ一世が就き、それを継いでタギ二世が国王を継いだのですが、

グレゴ いくつか不正がありまして、サムソ まあ些細なことですがね、

エスカラ ここは歴史の浅い国でして、きちんと形のある制度や法律がありません。ベロナでは国民の人気なくなると国王を続けるのが難しいんですよ。というのも、国民は常にタギ一族とキュレト一族のどちらにつくかを見極めてるので、人気なくなるとすぐに勢力が逆転するんです。いくつかの不正のせいで勢力はキュレト一族に傾き、タギ二世はキュレト二世に王位を譲ったわけです。

グレゴ しかしそれが悲劇の始まりでしてね、

サムソ キュレト二世は頭の回転が遅くて、

グレゴ 飢饉や犯罪の増加にまったく対応できなかったんです。

サムソ 国民はうんざり。

グレゴ そんな中タギ二世が死んでしまったわけです。

サムソ 表向きは事故死ということになっていますが、

グレゴ 街では、キュレト二世が自分の人気がなくなったことに焦り、事故死に見せかけて殺したというもっぱらの噂。

サムソ このまま国民の不満が高まればいずれ命を狙われると思つたキュレト二世は、

グレゴ やむなく亡きタギ二世の弟、モンタ様に王位を譲ったというのが真相です。

サムソ そして海より心の広いモンタ新国王は、王位を譲られた代わりに、正式に事故死と発表、キュレト二世をお許しになったというわけです。

座長 いやはや、つまらない芝居よりよほど劇的ですね。

サムソ まあこの一件で、キュレト一族はもうおしまいでしょう。

エスカラ そうだろうな。

サムソ いまさらキュレト側につく奴なんて犬か猿くらいなもの

ですよ。

グレゴ キュレト側につく者は人間にあらずってね。

一同、笑う。

ボルト登場。

ボルト おい、邪魔するぞ。

座長 あれは。

サムソ キュレトの人間です。

グレゴ キュレト二世の甥、ボルトですよ。

ボルト 今しがた俺たちキュレト一族の悪口がきこえたが？

サムソ いえいえまさか、

グレゴ 空耳では？

ボルト (サムソの胸ぐらをつかみ) 知ってるぞ、貴様があることないこと言いふらしていることを。

サムソ なにをおっしゃいますボルト様、私は真実しか喋りません。

ボルト 我慢ならん、タギ一族に味方する者は一人残らず叩きのめすぞ。(剣を抜く) お前らの中でタギに味方するものは誰だ？ 名乗り出る。

エスカラ 暴力はよしてください、キュレト一族といえども、自警団として逮捕しなければなりません。

ボルト なにが自警団だ。貴様のようなうすのろが副団長じゃあ、亀をつかまえるのがせいぜいだ。

エスカラ なんだと貴様！ (剣を抜く) 思い知らせてやる！

サムソ お助けください副団長。

グレゴ 自警団の力を思い知らせてください。

ボルト 望むところだ。

ボルトとエスカラ、闘う。

パリー団長が入ってくる。

パリー なにをしてるんだ貴様ら。戴冠式の日だぞ。国王陛下の顔に泥を塗る気か。

エスカラ しかし団長、

グレゴ ボルト様が突然剣を抜き、

サムソ 私たちを襲ってきたのです。

ボルト 違う、貴様らが俺たちの悪口を、

パリー ボルト様、今日は戴冠式です。分別をお持ちください。

ボルト お前に言われたんじゃ仕方がない、今度俺たちの悪口を言うてみる、命はないと思え。

ボルトは去る。

パリー 神聖な一日を汚すな。(エスカラに)お前がついていながら。

エスカラ すみません団長。

パリー 散れ。

座長とパリー、エスカラを残して去っていく。

パリー 失礼しました。

座長 いえいえ、驚きましたが、しかし、あの青年はあなたの言うことはきくのですね。

エスカラ パリー団長は、キュレト二世が国王だったときも治安を守り続けてきましたから。それに、剣さばきで団長に勝てる者はいません。

パリー お芝居楽しみにしています。(エスカラ)に行くぞ。祭に浮かれて騒ぎを起こす輩がいるかもしれない。  
座長 では、私も失礼しましょう。

全員、去る。

#### 4. キュレト二世の邸の一室

キュレト二世、娘のターピ、甥のボルト登場。

キュレト二世 なんとということだ。戴冠式の日騒ぎを起こすとは、ボルト だって叔父さん、俺たちの悪口を、

キュレト二世 今は耐えるんだボルト。俺はタギ一族に王位を譲りはしたが、それと同時にある約束をした。

ボルト 約束？

キュレト二世 詳しくは言えないが、王位を譲ったのは一時的なこと。近いうちに俺が再び国王になることに決まっている。

ターピ どうして、お父様？

キュレト二世 タギ一族とキュレト一族は、表向き協力しながら国を治めているが、実際は陰悪、隙さえあれば相手を潰そうとしている、というのが世間の認識だ。

ボルト そして実際にそうだ。

キュレト二世 目に見えていることが真実とは限らない。あのまま俺が王位についていたら、誰かに命を狙われていたかもしれない。  
ターピ でもタギ一族が王位を譲るとは思えない。

キュレト二世 ああ、ジュリが来た。詳しいことはいずれ話す。

ジュリが現れる。

ジュリ お父様、人間ってどんなときが幸せか知ってる？

キュレト二世 さあ、平和に暮らせるようになったときかな。

ジュリ いいえ、胸が高鳴り、寝ても覚めても同じことを思い浮かべては嬉しくなって心躍る、そんなときよ。

キュレト二世 そうか。ターピ、妹の話をきいてやってくれ。行くぞ。

キュレト二世とボルトは去る。

ジュリ ねえターピ姉様、ある人の顔がずっと自分の頭を離れない、気づけばその人のことばかり考えている、そんな体験したことある？

ターピ 私はないね。

ジュリ かわいそう。なにが楽しくて生きているのかわからないわ。ターピ 前置きはいいわ。話して。

ジュリ 昨日、戴冠式の夜、街でリスを見つけたの。珍しいと思って、夢中でリスを追ったわ。リスって狭いところが好きなのかしら。暗い小道に入ってしまったの。そしたら短剣を持った男が立っていた。その人が短剣を自分の首へあてたもんだから、私、「お待ち



ちになつて」と言ったの。暗くて顔はよく見えなかつたけれど、たぶんその人は驚いていたわ。私、「どうしてそんなことを？」ってきいたの。その人の涙を、月明かりが照らしたような気がしたわ。私が近づくと、その人の顔が分かつた。愁いをたたえた美しいお顔。その人は「生きる希望がないんだ」と言った。だから私はこう言ったの。「私が、あなたの生きる希望になれませんか？」その人は初めて私の方を見たわ。そしたら、やっぱりあの人に間違ひなかつた。

ターピ 誰？

ジュリ ロン王子よ。私たちが憎むタギ一族。

ターピ タギの者が？

ジュリ ロン王子もね、きつと私を見たとき同じことを思ったと思う。自分を憎む一族だつて。だから私こう言った。私たちは、タギとキュレトじゃなくて、ロン王子と、ジュリよ、つて。

ターピ それから？

ジュリ それで对不起。でもまたお会いしましょうつて約束したわ。

ターピ 私もちろん妹の恋愛を応援したいという気持ちもあるけれど、でもわかつてるでしょう。

ジュリ タギ一族とキュレト一族は結婚できない？

ターピ そう。

ジュリ そんなこと誰が決めたの？

ターピ 暗黙の了解よ。

ジュリ 恋をするのはいけないこと？

ターピ 相手が悪い。

ジュリ 私の思いを変えていくしか？

ターピ そうね。

ジュリ 変わるべきなのは私じゃなくて世界だと思うの。この国はどこかおかしいわ。

ターピ (笑つて) いいわ。あなたのために、私が世界を変えてあげる。

ジュリ 本当に？

ターピ ここベロナは、見えないところで何かが起こっている。私、変装してそれを探ろうと思う。

ジュリ 変装？

ターピ キュレト一族だと思われたらみんな素直に話してくれないでしょう？

ジュリ キュレトの証は？

ターピ ポケットにしまつて。全てが明らかになったとき、きつとまたベロナの国は、誰の目にも美しい国になるわ。だから、

ジュリ だから？

ターピ 自分が正しいと思う道をまっすぐ進みなさい。

ジュリ (笑つて) 街でおめかしする道具買って来なくちゃ。

ジュリは去る。

ターピ 私もそろそろ準備しなくちゃ。この国の秘密、暴いてやる。

二人去る。

## 5. レスロの家

レスロ、ロン、ベリーオが現れる。

レスロ どうぞどうぞお入りください、カビ臭い家ですが。

ロン 失礼する。

レスロ 少しだけ用を済ませてください。最中に漏らしてしまつたら目も当てられない。

ロン ああ、すつきりしてきてくれ。

レスロは去る。

ベリーオ どうしたんです、急に霊媒師の家に来て。それと、昨日はどうしていなくなったんです？ 踊り子たちが気に入りませんでしたか。

ロン すまない。俺はキミを裏切ろうとした。というのも、俺は死ぬつもりだったんだ。

ベリーオ なんですって。

ロン 本当にすまない。今思えば衝動的なものだったのかもしれない。短剣で首と胴体を切り離すところだった。だが、たまたま通りがかったやつに止められた。

ベリーオ 知らない男に？

ロン いや知ってる女だ。キュレト二世の娘。

ベリーオ ジュリ様ですか？

ロン ああ。実は間近に彼女を見たのは昨日が初めてだった。それで、なんというかその、ああああ、

ベリーオ なんです。

ロン 彼女は俺のことをどう思ったんだろうか。女々しくて意気地なしとでも？ それとも？

ベリーオ ということは結果的に気分転換になったわけですね。

ロン 気分転換？

ベリーオ お父様を亡くされた悲しみはどこかに、

ロン 俺は誰よりも深くお父様を愛していた。だが、今は彼女のことで頭がいっぱいなんだ。

ベリーオ それでここに？

ロン ああ。あの霊媒師にあの人の生霊を呼び出してもらおう。

ベリーオ あはは、

ロン 貴様、バカにしたのか？

ベリーオ いえ、めっそうもない。

ロン お前にはわからんのだ。今の俺は、五体を引きちぎられるような思いなんだぞ。

ベリーオ ええ、わかっております。わかっております。

ロン 明日、丘の上で会うことになっているが、あらかじめ答えを知っておきたい。とてもじゃないが、明日まで身体がもちそうにない。

レスロが現れる。

レスロ いやああ大変身が軽くなりました。といいますのも、実はここ数日肛門から出るべきものも出ず、ああ、このまま死ぬことを覚悟しなければならぬ、そう思っていたところ、先ほど土砂崩れのようにポトポトポトと、

ロン それはよかった。さっそく頼む。

レスロ わかりました。この手が、私のお尻だとしましょう。これがゴゴゴつと開いてですね、

ロン 違う。ある人の声をききたい。

レスロ 失礼、そちらでしたか。死人の言葉をお聞きになりたいの  
で？

ロン いや、生きている人間だ。生霊を呼んでほしい。

レスロ なるほど。ただ、約束してほしいことがあります。

ロン 金ならある。

レスロ ええそのほかに。

ロン なんだ。

レスロ その方に、付き添いをお願いしても？

ペーリオ 僕ですか？

レスロ 必ず一人、付き添いをお願いしてはいます。

ロン なぜ？

レスロ 霊を呼び寄せると、私の意識がなくなってしまうんですね。

でも私、霊魂が何を言ったのか、知りたいんですね。

ロン 俺があとで教えればいいだろう。

レスロ 恥ずかしい内容だったら嘘をつくかもしれません。

ペーリオ なるほど。

レスロ なので、あとで第三者に内容を教えてもらいたいです。

ロン わかった。問題ない。

レスロ それではいきましよう。たまに、全然違う魂が降りてくる

こともあるので注意してください。

ロン お前が注意してくれ。

レスロ 以前、未亡人の方が亡き夫を呼び出そうとしたら、全然知らないおじさんだったことがあります。

ロン 本当にうまくいくのか。

レスロ めったにないので大丈夫ですよおそらく。

ロン おそらくじゃ困る。

レスロ それでは、簡単な呪文があるので、一緒をお願いします。

ロン ああ、わかった。

レスロ まず、「ボックス」と言って、胸に手を当てます。

ロン こうだな。

レスロ 「ボックス」は「魂よ」という意味です。

ロン なるほど。

レスロ そして「ケーベオ・ジサーン」と言いながら両手を天にか  
ぎします。

ロン こうか。

レスロ はい。これは「私に教えてくれ」という意味です。

ロン なるほど。

レスロ そして最後に、「誰々、ここに降りてきてくれ」と言います。

ロン わかった。

レスロ ちなみにどなたをお呼びに？

ロン キュレト家の娘、ジュリだ。

レスロ なるほどいやらしい。

ロン 余計なことは言わなくていい。始めるぞ。

レスロ ええ、そうしましよう。では行きましよう。(ロンもレスロに

ついて同じことをする) ボックス、ケーベオ・ジサーン！

ロン キュレト一族のジュリ、ここに降りてきてくれ。

レスロ ……私を呼んだのは誰だ。

ロン すまない、ペーリオ、やはり出ていってくれないか。

ペーリオ え、しかし霊媒師との約束が。

ロン 頼む、キミに俺がふられる姿を見てほしくないんだ。

ベーリオ ふられるかどうかは、  
ロン そんな恥ずかしいところを人前にはみせられない。頼む、出ていってくれ。終わったら呼ぶ。

ベーリオ ええ、

ベーリオは去る。

ロン ……ああ、あの、先日は、何とっていいか、その、私はロン、ロン王子だ。

レスロ ロン……。

ロン ああ。

レスロ その声を聞けて嬉しい。

ロン 俺も、あなたの言葉を今こうしてきくことができて嬉しい。回りくどいことはやめて、単刀直入にききたい。俺のことを、愛しているか？

レスロ もちろん、愛している。

ロン 本当に？

レスロ ロンが私を愛しているのと同じくらい、私もロンを愛している。

ロン ああ、こんなことが！ 生きていてよかった！ 明日あなたに口づけし、体を交わらせても？

レスロ おおロン、私の息子、ロンよ。

ロン 息子？ 何を言っている。私を息子と呼べる人は一人しか。

レスロ お前の声が聞けて嬉しい。

ロン バカな、いや、まさか、あなたは、

レスロ 新しい国王の亡き兄、そしてロン、お前の父親。  
ロン まさか、そんなことが、

レスロ 私と体を交わらせたいのか？

ロン いえ、それはその、なんと言いますか、

レスロ ベロナはこのまま悪臭を放つおぞましい国になる。

ロン なんです？ 何か話したいことが？

レスロ この話をきけばお前は人殺しになる。

ロン 私が？

レスロ その運命を背負う覚悟は？

ロン どういうことです。

レスロ 私はどのように死んだときいている？

ロン 散歩中に足を滑らせ転落したと。

レスロ 真実は違う。

ロン キュレト一族が事故に見せかけ殺したとの噂も。

レスロ ベロナじゅうがその噂話に欺かれている。

ロン とすると真実は、

レスロ 私を殺した悪魔は、今王冠を戴いている。

ロン まさか、

レスロ 私が日課の散歩をしていると、あの悪魔は理由をつけて私をいつもとは別の道に誘い出した。小高い丘をのぼると、身を隠していた男が何人も現われ、私を谷底に突き落とした。そしてあの犬畜生は、純粹無垢たる私の妻をたぶらかし、身も心も汚してしまつたのだ。この美しきベロナの国をこれ以上汚してはならない。この国の運命はお前の手に握られているのだ。

ロン つまり、あの悪魔を……、

レスロ 誓ってくれ。

ロン 誓う？

レスロ 復讐を果たし、ベロナの国を救うと。

ロン 私にできますか？

レスロ できなければ正義は死に、悪がはびこる国になる。さあ誓え。

ロン 誓いましょう。あの悪魔には、その行いに見合った罰を。

レスロ 任せたぞ、我が息子、そして未来の国王、ロン。

レスロは倒れる。

ロン ……ベーリオ、ベーリオ来てくれ。

ベーリオが現れる。

ベーリオ もう終わりましたか。

レスロ (起き上がる) ああ、きましたね、この身体の具合は恐らく、ばつちり靈魂が降りてきた感じですね。さ、どうでしたか。ジュ

リ様はいいお返事を？ それとも悪いお返事を？

ベーリオ ええと、

ロン いい返事もなければ悪い返事もなかった。なあ？

ベーリオ ええ、

レスロ 女はそうなんですよ。どちらともつかない返事をして男を惑わせる。さ、さ、向こうで詳しくお聞かせください。

ベーリオ ええ、

ロン すまないベーリオ、少しいいか？

ベーリオ (レスロを見る)

レスロ ああ、どうぞどうぞ、奥で待っていますから。

レスロは去る。

音楽。

ベーリオ ジュリ様のお返事はどうだったんです？

ロン あの人は話せなかった。代わりに、驚かないで聞いてほしいが、

ベーリオ なんです？

ロン お父様と話した。

ベーリオ お父様？ タギ二世ですか？

ロン 力を貸してくれないか。詳しくは話せないが、これから大変な仕事にかからなければならぬ。ベロナの命運がかかっている。これから俺は、全てを受け入れ、従順な人間になったふりをして

機会を伺うことにする。どのような時期にどのような方法で実行するかを考えなければいけない。今日俺がお父様と話したことは誰にも言わないでほしい。

ベーリオ ええ、

ロン 誓ってくれ。

ベーリオ 誓いましょう。

ロン ここベロナには大きなひずみが生じている。それを直すために俺は生まれたのかもしれない。お前はレスロにそれらしい嘘の話をしてくれ。

ベーリオ ええ、

ロン さあ、行くことにしよう。

第二幕

座長 美しき国ベロナの地 王座とり合う一族の

息子 娘が惹かれ合う

叶わぬ愛は響き合い 約束していたあの丘へ

ベロナの二人の恋の行方を

どうぞごゆるりと、ご覧ください。

6. ベロナの丘

ロンが、ベロナの街を眺めている。

ジュリが現れる。

ジュリ 丘の上は風が気持ちいいわ。

ロン お父様はここから落ちた。

ジュリ 眺めはどう？

ロン あなたにはどう見える？

ジュリ 美しい街だわ、ベロナは。でもあなたと比べればそれほど。

ロン 見た目の美しいものが中身も美しいとは限らない。

ジュリ あのと最初に初めて間近でみたわ、あなたの姿。

ロン 姿は見えるが、心は見えるか？

ジュリ 一緒にいれば少しずつ見えてくるわ。

ロン 俺はこれからある仕事を終えるまで芝居をしなければいけない。その仕事が終わるのが1ヶ月後になるか、1年後になるかはわからないが、そのときは、

ジュリ そのときは？

ロン 今、これを受け取ってくれないか。(指輪を出す)

ジュリ でも、私たち、タギとキュレトよ。

ロン ロンとジュリだ。

ジュリ 誰にも祝福されないわ。

ロン そんなことを気にする者はいなくなる。近い将来、俺が国王になり、そういうくだらないものではなくしてみせる。だから、俺たちが結ばれるのは、俺たちのためでもあり、ベロナのためでもある。つまり俺たちが、

ジュリ 私たちが？

ロン ベロナの希望になるんだ。

ジュリ ベロナの希望に？

ロン 俺たちの結婚で、タギだのキュレトだの、そんなくだらないものはない。だから、

ジュリ だから？

ロン その日が来るまで、(ジュリに指輪をつける)

ジュリ 待ち続けていればいい？

ロン 必ずその日はやって来る。

ジュリ (ロンと抱き合い) ……なにか恐ろしいことを？

ロン なぜ？

ジュリ そんな気がする。

ロン 俺は、この国の希望だ。いや、ただ自分のことを希望だと思っっている悪魔なのか。正義の実現には、ときには荒療治が必要なのだ。頼む、その指輪を片時も離さず身に着け、俺が悪い方に行かないよう祈っていてくれ。

ジュリ わかったわ。

ロン 今日はここまでだ、あまり二人でいるところを見られるのは良くない。また近いうちに。

ジュリ ええ、この指輪を片時も離さず、あなたを思い続けているわ。

二人、去る。

## 7. モンタの邸の一室

モンタ国王とマーキュ王妃が現れる。

マーキュ ねえあなた、この国を素晴らしくするために必要なものがなんだかわかる？

モンタ 宴会続きで疲れているんだがな。

マーキュ 国民ひとりひとりがこの国を愛することよ。

モンタ 愛していない人間がいるかね？

マーキュ 仕方なくベロナにいる人だっているでしょう。でも、やっぱりベロナの民にはベロナを愛してほしいわ。

モンタ しかしどうやって？

マーキュ 教育よ。小さい頃から、いかにベロナが素晴らしい国であり、愛すべき国であるかを教え込んであげるのよ。

モンタ ふむ。

マーキュ 教育熱心な方がいてね、7年前にベロナに移り住んできた人だけど、その人がいた国には、きちんと学校つてものがあって、子供たちはみんなそこで勉強をするのよ。

モンタ 学校なんてものが必要かね？

マーキュ そういう時代よ。

モンタ しかしどこに建てる？ 教える人間は？

マーキュ 先生はその人に任せましょう。建てるのは、あそこではないわ。キュレト支持派の家が集まっている場所があるでしょう。あそこを潰して。

モンタ ああ、あそこか。

マーキュ なにか適当な理由をつけて立ち退いてもらえばいいわ。

モンタ 少し考えさせてくれ。

マーキュ もう約束しちゃったわ。

モンタ また約束したのか。

マーキュ 何事も早い方がいいのよ。

モンタ お前はすぐ勝手に約束をする。

マーキュ だって、私のこと嫌い？

モンタ 仕方ない小鳥だお前は。(笑いながら抱きしめる)俺は亡き兄よりもお前を愛している。

マーキュ 私もよ。

二人、抱き合う。

モンタ、マーキュの体を撫でまわそうとするが、

マーキュ ここじゃダメよ。

モンタ 俺たちの息子のことだが。

マーキュ ああ、やっぱり私が粘り強く言い聞かせたのがよかったんだわ。

モンタ なにか裏があるんじゃないだろうか。

マーキュ 私のお蔭よ、もっと喜んで。

モンタ 急に態度が変わった。

マーキュ ロンはね、わかったのよ。いつまでも悲しんでいるだけじゃ前に進めないって。表情も明るくなって、冗談も言えるようになったわ。

モンタ 俺の思い過ぎならいいんだが。

サムソとグレゴが現れる。

サムソ モンタ国王、到着しました。

グレゴ 何のご用でございましょう。

モンタ おお、よくきた、ええと、

サムソ サムソです。

グレゴ グレゴです。

モンタ そうだそうだ。お前たちはよく昔ロン王子の遊び相手をしてくれていただろう。

サムソ それはもう。

グレゴ 懐かしゅうございます。

サムソ ロン王子があのような立派な方に育ったのも、

グレゴ わたくしたちのお蔭と言っても過言ではありません。

モンタ お前たちならロンは心を開いてくれると思う。

サムソ それはもちろん。

グレゴ このペロナで最もロン王子と親交が深いのは、

サムソ 私たちをおいてほかにはおりません。

モンタ 最近になってロンのやつは急に態度を改め、俺たちに従順になった。その理由がなにであるかを探ってほしい。うまくいけ



ばお前たちが一生生きていくのに困らないほどの報酬を与えよう。

サムソ それはなんと、

グレゴ 確実に理由をさぐりだしてみせます。

モンタ 頼んだぞ、サムソ、グレゴ……（どちらがどちらか不安になり

言い直す）いや、グレゴ、サムソ。

サムソ サムソです。

グレゴ グレゴです。

マーキュ いい加減覚えなさい、あなた少し痩せたんじゃない、グレゴ。

サムソ サムソです。

モンタ 我々はさっきの続きを。

マーキュ 元気なライオンね。

モンタ それではうまくやってくれ。

サムソ・グレゴ お任せください。

全員、去る。

## 8. 酒場

座長、グレゴが現れる。

グレゴ さあさあ、今日も、好きなだけ飲んでいってくださいな。

座長 いやいやこう毎日、

グレゴ そうおっしゃらずに。

座長 そうですか、いやいやそれならお言葉に甘えて、

変装したターピが現れる。

ターピ どうも。

グレゴ おおいらっしやい。この店じゃ初めて見る顔だね。

ターピ 客の顔を全て覚えてるんですか？

グレゴ 一度見た顔は忘れないんだよ。

ターピ 少し遠くから来まして。

グレゴ あんたタギ派？ キュレト派？

ターピ ……さて、どちらとも。

グレゴ だったら、こう質問されたときはタギ派と答えた方がいいよ。

ターピ そうですか。

グレゴ そりゃ、いまだきキュレト派なんて言ってもいいことがないよ。

もうキュレトが国王になることは二度とないからね。

ターピ どうしてそんなことが？

グレゴ そりゃそうさ。飢饉になったときや、犯罪が流行ったときのキュレトの対応はひどいもんだった。おまけに、タギ二世様を暗殺したとなっちゃ、

ターピ その噂は真実ではないと国王が発表していましたが、グレゴ 表向きはそうだがみんな知ってる。

サムソ、ロンが現れる。

サムソ さ、さ、飲んでいきましようロン王子。

グレゴ これはロン王子。いいところに。旅一座の座長もいますから。

ロン ほう、あなたが。

座長 ええどうも。

サムソ それにしてもロン王子、最近すっかりお元気になったよう  
で。

グレゴ なにかいいことでもあったのでしょうか？

ロン お前にとっていいことでも俺にとっては悪いことかもしれない。  
ない。

グレゴ ロン王子にとっていいことですよ。

ロン それはお前にとって悪いことかもしれない。

サムソ しかしご立派だったタギ二世が亡くなつてからというもの  
の、ロン王子の人気には拍車がかかっていますよ。

グレゴ この気品、人徳、当然のことですよ。

ロン キミは悲劇専門だときいたが、

座長 ええ、そうですが、

ロン どんな芝居がある？ 聞かせてくれないか。

座長 ええと、では、夫殺しの話はどうでしょう？ 美しい女があ

る国の国王と結婚したのですが、女は、自分の兄を殺したのが実  
はその国王であると知ります。女は国王を毒殺し、希望を失った

女も自殺してしまうという筋書き。

ロン それはいい。ここで上演する演目は既に決まっているのか？

座長 いえ、まだ迷っているところですよ。

ロン ならぜひその話を上演してほしい。

座長 気に入りましたか。

ロン ああ、もし台本があれば見せてほしい。

座長 ええ、今度お持ちしましょう。  
グレゴ さ、お酒をご用意しますね。

ボルトが現れる。

ボルト ここにいたか、ロン。

ロン ああ、ボルトか。

ボルト 貴様がジュリと会っているのを見かけた。か弱い女をなぶ  
り俺たちキュレト一族への恨みを晴らす気か。

ロン 待て、キミはなにか誤解しているようだ。

ボルト 問答無用。今日という今日は貴様の命をもらおう。(剣をふる)

ロン (よける) 貴様がそう来るなら、容赦はしない。

ロンとボルトは鬨い、ロンはボルトを追い詰める。

ロン もうやめだ、こんなバカなことはやめて話を聞け。

ボルトは剣を降ろすふりをして、再びロンに襲いかかる。

二人はまた闘う。

ロン なぜお前はそうなんだ、お前のその態度がペロナの恥になっ  
ていることがわからないのか。

パリーとエスカラが現れる。

パリー 何をしてる！

ポルト パリー団長、

パリー またですか、いい加減になさってくださいポルト様。

ポルト こいつがジユリをなぶりものにしようと、

ロン 誤解だ。

パリー 誤解だと言っています。

ポルト どう誤解なのか言ってみろ。

パリー 誤解だと言っているでしょう！ 今度こんな騒ぎを起こしたらキュレト一族といえど容赦しませんよ。

ポルト こいつが悪い。

パリー あなたが悪い。(剣をつきつけ)黙らなければ首に穴を開けますよ。

ポルト (ロンに)今度俺の目の前に現れてみる。お前が死ぬか、俺が死ぬかどちらかだ。

ポルトは去る。

パリー お怪我はありませんか？

ロン 怪我はないが、なぜあいつが一方的に悪いと決めつけた。

パリー ロン王子が人徳ある人間であることは誰もが知っていることです。

ロン しかし、誰の話も聞かずに、

パリー それにあなたはタギ一族です。

ロン タギだから助け、キュレトだから追い払うのか。お前たち自警団は国を守るため自ら結成された組織のはずだろう。

パリー 国を守るということは、国王の一族を守るということです。ロン ならもし国王が国の不利益になる罪を犯した場合は？

パリー ……国王はそのようなことはなさいません。

ロン もしもだ。

パリー 仮定の質問にはお答えできません。自分が助けられたことが不服ですか？

ロン いや、

グレゴ いやいや実に爽快でしたよ、

サムソ あのキュレトの悔しそうな顔、

グレゴ 飢饉や犯罪に対応できないやつなんてあの程度ですよ。

サムソ わたしたちはタギ一族の味方ですよ、

サムソ どうぞご最真に、

グレゴ タギ一族、

グレゴ・サムソ ばんざーい！

サムソ ロン王子、

グレゴ・サムソ ばんざーい！

ターピ 少しいいですか。

グレゴ なに？

ターピ あなたは、キュレトが飢饉や犯罪に対応できないと言うが、もしそれが今の国王が引き起こしたものだとしたら？

グレゴ バカかあんだ。

サムソ 現実感のない話だ。

グレゴ ロン王子の前で失礼だ。

サムソ ロン王子に謝れ。

ロン いやいい。あの国王ならやりかねないことだ。それより、このような場で、キミのような発言ができるということが重要だ。よく言ってくれた。キミのような人間がいるから、国というのは成り立つのだ。礼を言おう。座長、

座長 ええ、

ロン 少しいいか。上演する芝居のことで相談がある。  
座長 ええ、なんなりと。

ロンと座長は去る。

パリー 貴様と会うのは、今日が初めてか？

ターピ ……ええ、おそらく。

パリー そうか。早くこの場を離れた方がいい。お前のようなやつ  
が来る場所じゃない。

ターピ ご忠告に従いましょう。

ターピは去る。

パリー ロン王子に注意しろ。

エスカラ 王子にですか？

パリー いずれ国王になる方だ。機嫌を損ねないように。今の国王  
と同じやり方では気に入らないようだ。

エスカラ は、勉強します。

パリー 行くぞ。ロン王子について少し調べよう。お前らも今日は  
解散しておけ。

グレゴ そうしますよ。

全員、去る。

## 9. 路地裏

ターピが現れ立ち止まり、なにかメモをまとめている。  
ジュリが現れる。

ジュリ もし？

ターピ わ、

ジュリ ターピ姉様でしょうか？

ターピ ジュリか、よく私だってわかったわね。

ジュリ すぐわかるわ。

ターピ でも、他の人は誰も気づかなかった。

ジュリ ねえ、ターピ姉様、

ターピ なに、

ジュリ これ、（指輪を見せる）

ターピ 誰が？

ジュリ ロン王子が。近いうち私と結婚してください。

ターピ 本当に？

ジュリ ええ。

ターピ （ジュリを抱きしめ）よかったわ。でも、本当に実現するか  
しら。

ジュリ してみせるわ。だって、私たちの結婚が、この国の希望に  
なるんだもの。お姉様はなにかわかった？

ターピ ここ数日街を歩き回って話を聴いたり、盗み聞きをしたり  
しているいろんなことがわかってきた。もちろんどれも確かな証拠  
はないけど。

ジュリ 話して。

ターピ 街ではいろんなことが噂になっている。

ジュリ みんな噂が好きなのね。

ターピ この噂つてのが曲者でね、どの話も誰が発信した情報なのかはつきりしない。

ジュリ 噂つてそういうものでしょう。

ターピ でも誰かが意図的に嘘の噂を流し、本当のことを隠しているとしたら。

ジュリ そんなことができる？

ターピ 人は見たいものを見て、信じたいものを信じる。

ジュリ 信じたくない噂は誰にも話さないし、信じたい噂はみんなに話すつてこと？

ターピ お父様がタギ一族に王位を譲つたのは、神の声、神託があったから。

ジュリ そう発表されてるわ。

ターピ でも本当にそんな神託があつたかなんて証明できる？

ジュリ 神託を話したのはレスロ霊媒師でしょう。

ターピ 彼は自分の神託を自分では聞くことができない。

ジュリ そうなの？

ターピ それに誰かが教えたとして、口止めされている可能性だつてある。タギ二世だつて事故死ということになっているけれど、殺された可能性だつてある。

ジュリ お父様に？

ターピ もしくは、実の弟に。

ジュリ そんなこと。

ターピ 証拠さえあれば公表したいと思う。

ジュリ でも、

ターピ なに？

ジュリ 誰も信じなかったら？

ターピ 信じたくないものを信じさせるのはとても難しい。でも、ジュリ でも？

ターピ みんな心のどこかで良心が痛んでいるはず。

ジュリ そこに訴えかけるのね。

ターピ 少しずつ説得して味方を増やしていく。多くの人が味方になつてくれれば、あとは簡単。

ジュリ 人は多数派についていきたいから。

ターピ そういうこと。

ジュリ 私、お父様にくだらない争いはやめて結婚を許してくれるようしつこくお願いしてみる。

ターピ 許してくれるかしら。

ジュリ 説得してみせるわ。だつて私、祝福されたいもの。

ターピ (ジュリの無邪気さに笑つて) そうね。

ジュリ 二人、できることをやりましょう。

ターピ ベロナのために。

ジュリ ええ。

二人、去る。

## 10. 広場

ポルトが現れる。

ボルト 実に気に入らん。タギのやつら。なにかやつらの地位を落とす手がかりはないものか。噂によればロン王子は新しい国王をあまりよく思っていないらしい。これからはじまる芝居にタギのやつらが来るらしいが、作品を選んだのはロンだときいた。この芝居でなにか国王に仕掛ける可能性はあるな。ロンが来た。隠れて様子をうかがうことにしよう。

ロンとベーリオ、座長が現れる。

ロン 頼んだぞ。

座長 ええ。

ロン 俺が脚本につけたした部分もしっかりやってくれ。

座長 もちろんです。

ロン 役者たちの演技もしっかり頼む。

座長 きつく言っておきましょう。それでは私は準備に。

座長は去る。

ロン そしてベーリオ、上演中の国王の態度を見てほしい。芝居の内容は、あの悪魔が偉大なる族長を殺した場面を再現してある。もし国王がそれを見て慌てふためくようなら、お様を亡き者にしたのはあの犬畜生で決まりだ。だからベーリオ、あの男の些細な仕草、目の動き、見逃さないでほしい。

ベーリオ ええ。もし見逃したならこの役立たずな目玉は潰すことにしましょう。

ロン さあ、やつらが来た、従順な男を演じることにしよう。

モンタ国王、マーキュ王妃が現れる。

モンタ おお、もう来ていたのかロン。

ロン はい、久々に芝居が観られるのが楽しみで仕方ないのです、お父様。

モンタ お父様？ おお、ようやく父と認めてくれたか、お父様：：実にいい響きだ。

ロン この世にいない者のことをいつまでも考えることは無益です。そうでしょうお父様。

マーキュ よくわかってるわロン。実はね、お父様はね、あなたが物分かりがよくなったのはなにか裏があるんじゃないかって言っていたの。でも、ほらねあなた、そんなことないでしょう。

モンタ 疑っているということはない。俺は最初から息子を信じている。

ロン お父様に信頼されてとても嬉しく思います。

マーキュ あら、芝居が始まるようだよ。

座長と役者たちが登場。

座長 美しき国ペロナのみなさま、

そしてこのペロナの地を統治する

偉大なるモンタ国王陛下、

ここにお集まりくださり心より感謝申し上げます。

私たちは悲劇専門の旅一座。

古今東西多種多様の悲劇を取り揃えております

わたくしたちが本日上演いたしますは  
ある時代のある国の物語。  
その国の国王と王妃は仲睦まじく暮らしております。

音楽。

役者1（劇中の国王）、役者2（劇中の王妃）が登場。

役者1は役者2の手にキスをする。役者1は役者2を抱きしめる。

国王と王妃はゆっくりと踊り出す。

マーキュ このお芝居はセリフがないのかしら。

ロン この芝居、僕が上演するように頼んだのです。ここはまだほんの序章ですよお母様。まもなくこの芝居の主役が登場します。

役者3がゆっくり歩いて登場する。

王妃は離れたところに立っている。

ロン あれが主役、国王の実の弟です。

役者3 あのような美しき女を妃とするとは。一人前の教育を受け、人望厚く、腕っぷしも強い。俺とは大違いだ。というのもたか先生まれただけ。なぜ俺はただ後に生まれたというだけで、兄と比較され劣等生の烙印を押されなければならないのか。俺が兄にとってかわれば、兄の人生は、俺の人生に。お兄様、今日は気分を変えて散歩の道をかえてみては。

役者1 道を？

役者3 ぜび丘の上まで。

役者1 それはいいな。

役者3 つきました。

役者1 実に見晴らしがいい。

役者3 もっとよく見てみては。

役者1 そうだな。

役者3 さようなら。

役者3は役者1の背中を押し、役者1は落ちていく芝居。

マーキュ（モンタに）あなた、ご気分がすぐれない？

役者2が現れ、役者3は役者2を抱きしめ、手で身体をいやらしく触っていく。

役者3 国王の座も、この美しき女も、この国も、全て俺のもの、俺のものなのだ。（笑い続ける）

ロン 国王が立ち上がった。

マーキュ あなたどこへ？

モンタ やめだ、芝居はやめだ！

ロンとペーリオを残して、一同去っていく。

ロン 見たか。

ペーリオ 国王を突き落とした芝居のときの顔もしつかりと。

ロン こうなれば、あの霊媒師が呼んだのはやはり本物のお父様と  
いうことで決まりだ。あの犬畜生は今頃部屋で引きこもっている

だろう。夫の機嫌が悪くなればお母様は決まって俺に相談する。夫がこの芝居で気分を害したとなれば、この芝居を上演するよう頼んだ俺をしかりつけるだろう。

王妃の声　ロン、あとで私の部屋にいらっしやい。  
ロン　ほうら来た。いよいよ歯車が動き始めたぞ。あとは最後までうまく回ってくれるのを祈るのみだ。行くぞ。

ロンとベーリオは去る。  
隠れていたボルトが現れる。

ボルト　なにか面白いことが起こりそうだ。抜け道は調べてある。先回りしてやつらの裏の顔を押むことにしよう。

ボルト、去る。

## 11. モンタの邸の一室

モンタとキュレト二世が現れる。

キュレト二世　国王、お待ちください。今日は私と話す約束があるはずです。

モンタ　気分がすぐれない。また別の日に。

キュレト二世　前もそう言いました。

モンタ　今日は本当にすぐれない。

キュレト二世　前は嘘だったと？

モンタ　そうは言っていない。  
キュレト二世　王妃が仲良くしている教育者のことを知っていますか？

モンタ　知っているかもしれないし知らないかもしれない。  
キュレト二世　その教育者のために学校を建てると。  
モンタ　なにか問題かね？

キュレト二世　そのためにキュレト支持者の家を潰すと？  
モンタ　学校を建てたい場所にたまたまキュレト支持者の家が集まっていただけだ。

キュレト二世　国民が納得しますか？  
モンタ　納得するように説明していく。  
キュレト二世　タギ一族を称賛する教育をすると。  
モンタ　ただの噂だろう。

キュレト二世　王妃が言いまわっていますよ。

モンタ　私と妻は別人だ。妻のことは妻にきいてくれ。

キュレト二世　あなたが国王になってから生活に困る者が増えてきているという話もあります。

モンタ　生活に困る者はあなたが国王の時もいた。

キュレト二世　あの約束は守るんですよね？

モンタ　どの約束だ。

キュレト二世　近いうちに国王の地位を返してくれると。

モンタ　あなたへの世間の評判が回復したら近いうちに必ず返す。

さあ、今日はもうお帰りを。調子が悪い。

キュレト二世　今度またじっくりお話ししましょう。

キュレト二世は去る。



モンタは座り込む。

モンタ　なんだあの芝居は……ただの偶然か、それとも……あの芝居はロンが選んだと言っていたな。まさかロンは……いやまさか、そんなはずは……、ああ神よ、どうかお許しを、私の罪をお許しください、いや、国王の座も、妃も、ベロナも手元に置きながら許してくれなどと……。しかし、これは手放すわけにはいかない。たいていのことは金でかたがつくが、神の許しだけは……。いや、しかし俺は絶対に手放さない、しがみついてでも、神がどんな罰をくだそうが手放さないぞ。いや、案外神は罰をくださないかもしれない、そうだ、俺が隠しておけば誰にばれることもない。隠し通せ。隠し通すのだ。

モンタ、去る。

## 12. 王妃の部屋

ポルトが現れる。

ポルト　まだ王妃もロンも来ていないな。間に合った。来たか。(隠れる)

マーキュとロンが現れる。

マーキュ　入りなさい。ロン、お父様がどうしても気分を悪くしたの

かわかる？

ロン　お父様はあなたのせいで気分が悪いのですお母様。マーキュ　どういうこと？

ロン　愛情を注いだ女に裏切られ犬畜生と不潔な関係を結んだでしょう。

マーキュ　まだ亡きお父様の影を追っているの？

ロン　あの犬畜生は万死に値するし、あなたも同罪だ。だが、あなたのことは許そう。あの悪魔を殺してくれさえすれば。

マーキュ　何を言ってるの。

ロン　あの悪魔には愛する者に裏切られ殺されるのがふさわしい。毒を盛り、苦しむ中何度も何度もやつの体を短剣でめった刺しにしてほしい。

マーキュ　目を覚まさない。あなたなにかに憑りつかれているのよ。

ロン　真実を知れば、あなたは喜んであの悪魔を殺すことになる。

マーキュ　真実？

ロン　ああ、真実だ。

マーキュ　その真実とやらを言ってみなさい。

ロン　落ちて着いてききなさい。……お父様を殺したのは、ほかでもないあの悪魔だ。

マーキュ　まさか。

ロン　父を普段とは違う散歩道に連れ出し谷底に突き落とした。

マーキュ　信じません。

ロン　さきほどの芝居は、あの悪魔がお父様を殺した場面そのものだ。やつはそれに気分を害されて引きこもった。あの態度で確信した。動かぬ証拠だ。どうだ？　怒りが沸き起こってきたか？

あとはあなたがやつを裏切り、地獄のような苦しみの中、やつの身体を八つ裂きにすれば、それで全てかたがつく。

マーキュ できません。

ロン できない？ できない、できない、なぜ！ あなたに人間の心はあるのか？ 尊いお父様を殺しベロナを醜い街にしたあの豚を殺すことになんのためらいがある？

マーキュ 私はあの人なしじやダメなのよ。

ロン ……信じがたい、あの豚を愛しているの？

マーキュ 愛している。全てを失ってもあの人を失いたくないわ。あなたにはあの人を素晴らしさがわからないのね。豪快で、知的で、情に厚く、正義を貫き通すあの人のことを、ただ父親の弟と見ただけの理由で！ あなたはうがった見方をしている！ 情けない！ あなたは幼稚よ！ 世界を正しく見られない赤ん坊、いつまでも亡き者の影しか追えない意気地なし、恥を知りなさい、恥を！

ロン あのご立派だったお母様が、こんなにも腐り切ってしまったとは。あなたはなんと醜い生き物になったのか。あれほど美しかったお母様が。(鏡を突きつける)自分の顔を見てみる。なんて醜い、情欲と権力欲のなすままに振る舞う、人間とは思えない顔だ。肉にむらがる下等生物だ。

マーキュ 実の母になんてことをいうの！

ロン あなたが実の母であることが実に残念だ！ なぜあなたのような人間から生まれてきてしまったのか！ (剣を抜く)やむをえん、あの豚を亡き者にし、あなたも葬ることにしよう。一緒に埋葬してやる。家畜どうし地獄で仲良くするがいい。

マーキュ 誰か、誰か助けて！

隠れていたボルトが現れる。

ボルト 実に醜いねえ。いい話をきいた。ここで起きたこと、そして話していたことをぶちまけてやる。お前らタギ一族もこれで終わりだ。

ロン お前か。今お前に構っている暇はない。

ボルト 口の利き方には気を付けた方がいいぜ。

ロン それ以上喋ると殺すぞ。

ボルト 自分の立場がわかっていないようだな。

ボルト、ロンに襲いかかる。

ロンはボルトをあっけなく殺す。

音楽。

ロン まったく計画が狂った。最後にもう一度きく。あの豚を殺すつもりはないんだな。

マーキュ ……。

ロン どうした、豚だから喋れないのか。もう一度きく。あの豚を殺す気はないのか。

マーキュ ありません！

ロン そうか、じゃあお前を生かしておく理由はない。近いうち地獄である豚と会わせてやる。

マーキュ 叫ぶ。

ロン、王妃を刺し殺そうとするが、

ロン ……豚といえども実の母親、もう一步のところまで殺意が鈍った。運がよかったな。全て台無し。計画は考え直した。お前もあの犬畜生もまともに死ぬると思うなよ。

ロンは去る。

マーキュ ……誰か、誰か！ ああ、このままではいられない、追放よ！ 息子は追放よ！

### 第三幕

#### 13. モンタの邸の一室

モンタとキュレト二世が現れる。

キュレト二世 あなたは、あなたはなんてことを！

モンタ 今回のことは本当に遺憾に思う。

キュレト二世 あなたに甥の命を奪われた気持ちかわかるか？

あなたのかつての甥、そして今の息子が、ポルトの命を！

モンタ 力を合わせてこの困難を乗り越えよう。私もあいつをなん

とかしなればならんと思っている。私の妻も殺されるところだった。私もあなたも立場は同じだ。

キュレト二世 なら早くあの青年を処刑してください。

モンタ 私だってそうしたい！ だがいいか、ペロナは美しい国な

のだ。あなたの甥の死も、私の息子の行いも、世間に公表するわ

けにはいかない。しかもロンは民衆に絶大な人気があるのだ。ロ

ンが処刑されたとなれば、この国はどうなるかわからない。

キュレト二世 ならどうするんです。

モンタ こうしよう。

キュレト二世 そうしましょう。

モンタ まだ言っていない。

キュレト二世 早く言ってください。

モンタ やつをこの国から追放する。

キュレト二世 国民が怒ります。

モンタ 世間的には留学ということにする。

キュレト二世 うまくいくんでしょね。

モンタ なんとかする。

キュレト二世 王座は？

モンタ 近いうち必ず返す。今はまだその時じゃない。この一件が落ち着いたら確実に。

キュレト二世 約束ですよ。

モンタ 約束だ。

パリー団長と、エスカラ副団長が現れる。

パリー 陛下、お話が。

モンタ (キュレト二世に) 必ず約束だ。さあ、今日のところは、キュレト二世 必ずですよ。

キュレト二世は去っていく。

モンタ さて、話はなんだ団長。

パリー 不届き物を捕まえました。

モンタ 何者だ。

パリー 国王陛下の名誉を傷つけるようなデタラメを触れて回っている者です。

モンタ そうか。そのデタラメというのは、デタラメか？ それとも、

パリー ……国民が知るべきではないことです。

モンタ キミたちの使命はなんだ？

パリー この美しきベロナを守ることです。

モンタ それを脅かす者は？

パリー それ相応の対処をします。

モンタ 行け。

パリー はい。(行こうとする)

モンタ 団長。殺してはいけないぞ。ここは美しい国なんだから。

パリー はい。

モンタ 任せたぞ。

モンタは去る。

エスカラ 殺してはいけないんですか。

パリー 頭を使え。

エスカラ は？

パリー この機会に教えてやる。あれは殺せという意味だ。

エスカラ そうなんですか。

パリー 出世したきや言葉の裏を読み。行くぞ。

パリーとエスカラは去る。

#### 14. レスロの家

ロンとベーリオが現れる。

ロン レスロ、レスロ霊媒師はいるか？

レスロ 霊媒師が現れる。

レスロ はいはい、おお、これはこれはロン王子。どうなさいました。ジュリ様とはもう人前では言うのが憚られるような嫌らしいことはお済ませですか。

ロン 黙らないと口を裂くぞ。

レスロ これは失礼。今日はどういうご用件で？ 別の娘の生霊をお呼びしましょうか？

ロン 懺悔に来た。

レスロ ああそれは。特殊な性癖によってジュリ様に嫌な思いを（ロンに捕まえられ口に短剣を突きつけられる）冗談です。口を裂かないでください。

ロン （レスロを離して）あまり時間がない。話をきけ。

レスロ なんなりと。

ロン 人を殺した。

レスロ ……なんですって。

ロン 人を殺した。キュレト二世の甥、ボルトだ。

レスロ まさか。

ペーリオ この話は国王が公表をためらい、知っているのは一部の者だけだ。

ロン 俺は留学という名目で追放になった。

レスロ 追放。

ロン 俺はあのボルトは未熟者だとは思っていたが、だがそれでも死ぬべきではなかった。この世に死ぬべき人間などいない、ただ一人を除いて。だがその一人も……本当に死ぬべきだろうか。いざ人が一人死んだのを見ると……ダメだ、復讐の意思が鈍ってい

る。追放の前にやつを殺すことだってできるはずだ、だが……、レスロ その復讐というのは、誰の話です？ ……いや、やはりきかないでおきましょう。

ロン 何か違う生き方もあるかもしれない。

レスロ 追放された後はどちらへ。

ロン 一番近いのは西の国だ。

レスロ 野蛮な国ですよ。

ロン 行ってみれば案外悪くないかもしれない。

レスロ それならば、ジュリ様と一緒に西の国で暮らすというのは、

ロン ……。

レスロ 実のところ、私はお二人が結ばれることを願っていたんです。あなたが追放になった今それは叶わないが、せめてあなた方お二人だけでも幸せに、

ロン レスロ霊媒師、

レスロ なんでしょう、

ロン 今の国王が受けたとされる神託、デタラメだろうか？

レスロ ……。

ロン 王位を譲れだの、兄の妻を妃に迎えろだの、西の国に気をつけろだの、あの犬畜生にとって都合がよすぎる。

レスロ 私、神託の内容は自分ではわからないんです。

ペーリオ 付き添いはいたんだらう。

レスロ ……でたらめですよ。

ロン ……。

レスロ 実際の神託はたったひとつ。「19歳の青年が今のペロナを終わらせる」。これだけです。

ロン 19歳の青年。

レスロ 確実なことはいえませんが、国王陛下は、あなたのことだと理解しました。

ロン なるほど。それではじめから警戒されていたわけか。

レスロ 口止め料にこんな金をもらいました。所詮、私もそういう人間です。

ベーリオ その神託を知っているのは、

レスロ 国王陛下、キュレト二世、そして私です。

ロン キュレト二世も知っているのか。

レスロ ええ、その二人で神託を受けに来たのです。

ロン 妙だ。なぜキュレト二世は自分に不利な偽の神託を守った？

ベーリオ 裏がありそうですね。

ロン ベーリオ、キミにはそれについて調べてもらいたい。

ベーリオ わかりました。

ロン レスロ霊媒師、

レスロ ええ、

ロン この前俺の前でやった降霊術も、でたらめか？

レスロ まさか。そんな人の恋をもてあそぶような下劣な真似は、

さすがの私でもしません。

ロン (ベーリオと視線を交わし) そうか。ありがとう。

レスロ もしよければ、私に手伝わせていただけませんか？

ロン 手伝う？

レスロ あなたが西の国についたあと、なんとかジュリ様もこの国を旅立たせます。お二人は西の国で結婚を果たしてください。そして時期を見て、夫婦として、この国に戻ってきてください。そうすれば、この国は、もう少しマシなものになるかもしれません。

ロン ベーリオ、

ベーリオ はい、

ロン 俺の決意は固まった。俺は西の国に向かう。

ベーリオ ええ、

ロン この国にはもう、まともな判断をできる人間はいない。俺を含めてな。キミにはお願いがある。ここに王妃のハンカチがある。俺が盗み出した。これはあの犬畜生国王陛下が王妃に渡した大切なものだ。俺はお母様の筆跡に似せて手紙を書いておこう。愛の言葉を書き連ね、このハンカチを送りますと書いておく。ハンカチにその手紙を添えて、ある男に手渡ししてほしい。詳しいことはこれから伝えよう。この国の病巣はまるごと取り除かなければならぬ。

レスロ 必ずジュリ様をそちらに向かわせます。

ロン ありがとう。行こう。この国の命運はキミに託した。

ベーリオ 必ず成功させて見せましょう。

三人、退場。

## 15. 地下室

パリーとエスカラが明かりを持って現れる。

エスカラは、腕を縛られたターピを連れている。

パリー どうもカビ臭いな。

エスカラ あまり日の当たらない場所ですからね。

パリー 地上に比べて寒い。  
エスカラ 冷たい空気は下にたまります。

エスカラ、ターピを椅子に座らせる。

パリー 国王陛下の名誉を傷つけるようなデタラメを触れ回って  
いるようだが、目的はなんだ。

ターピ 国民に真実を知らせることだ。

パリー 根拠のない妄想だ。

ターピ タギ二世を殺したのは、弟のモンタ国王。

パリー 違う。キュレト二世が殺したのを、国王陛下がかばってや  
っている。それが真実だ。

ターピ デタラメだ。

パリー ほとんどの国民がそう理解している。

ターピ その噂を流したのはモンタ国王自身。噂を広めるのがうま  
いやつらに、その作り話を広めさせている。それだけじゃない。

モンタ国王は、飢饉や犯罪にキュレト二世が対応するのが遅れる  
ように仕組み、キュレト二世が国民の反感を買うように仕向けた。

パリー ……お前どこまで知っている？

ターピ モンタ国王とキュレト二世の関係も。

パリー ……

ターピ 二人の仲は陰悪だ、と国民は思っているが、実はそうじゃ  
ない。二人は裏で手を組んでいる。ひとりの強力な独裁者が仕切  
る国は、不満分子のクーデターでいざれ潰される。この国をつく  
ったとき、タギ一世とキュレト一世は、勢力を二つに分けること  
にした。タギに不満を持つものはキュレトに、キュレトに不満を

持つものはタギに味方する。ときにはタギはキュレトに譲歩し、  
ときにはキュレトはタギに譲歩することで、うまくお互いの不満  
分子のガス抜きをしていた。どちらかが力をつけ過ぎることのな  
いよう、二人の間で調整が行われていた。バランスが崩れそうに  
なり、タギ二世はキュレト二世に王位を譲った。それをチャンス  
とみたのが今の国王、タギ二世の弟モンタだ。やつは権力欲しさ  
にキュレト二世の評判を下げ、タギ二世を殺害。偽の神託を公表  
し自らが国王になることに成功した。モンタ国王はほとぼりが冷  
めた後にキュレト二世に王位を返すと約束し、キュレト二世はし  
ぶしぶ王位を譲ったが、モンタは国王の座に居座り続ける気だ。  
でも、絶対的な国王は必ず不満を呼び、いざれ滅ぼされる。あの  
国王はそのことがわかっていない。この美しい国ベロナで、いず  
れ血で血を洗う争いが起こる。

エスカラ ……(パリーに) あの、今の話は、

パリー お前も物事の表面だけを見て満足しない方がいい。

エスカラ ですが、そんなことが。

ターピ なぜ隠す？ このままだとベロナは滅ぶ。

パリー 隠さなければベロナは滅ぶ。ベロナの民はキュレト二世に  
失望している。そして、実際彼は頭の回転が遅い。私は彼が国王  
だったときも自警団の団長だったが、彼にはタギ一族と張り合う  
だけの力はない。国民もうすうすそのことに感づいている。キュ  
レト一世とタギ一世は、それは立派な人物だったそうだ。しかし  
立派な人間の息子もまた立派な人間とは限らない。タギ二世は優  
れた人物だったが、キュレト二世は判断力にかけ、甥のボルトは  
手の付けられない愚か者、娘のターピは多少頭が切れるらしいが、  
もうひとりの娘ジュリは世間知らず。彼が国王だった時代は本当

につらかった。タギ二世も消えた今、弟のモンタ国王陛下に頼るしか、道はないんだ。

ターピ だからと言って、正義を曲げていいと？

パリー 私だって曲げたくはない。だがな、(と言って黙る)

ターピ ……なんだ？

パリー 私はベロナの生まれじゃない。私の生まれた国は、それはひどい国だった。女は男を満足させて子供を生むだけの道具だったよ。父の暴力で母は死んだ。次は私の番だと思った。幼い私は国を逃げだしこの国に辿り着いた。自警団に入団し訓練を積んだ。5年前に西の国からベロナを守り、西の国に攻め入り降伏させた。その後推薦により団長になった。虐げられていた女の私が、ここまで上り詰めた。だが、このベロナでも女の地位はまだまだ低い。特に今のモンタ国王陛下はひどいものだ、

ターピ だったら、

パリー 今はまだ耐えるときだ。あの国王だってそう長生きはしない。私の夢はな、女が、男と同じように、胸を張って生きられる世の中をつくることだ。そのためには、もつと上にいかなきゃいけない。幸いこの国はまだ歴史の浅い国だ。国王について決まった制度がない。キュレト一族が国民に見放されロン王子が追放になった今、今の国王に気に入られれば次の国王が私になることだ。ってありうるわけだ。だから頼む、今モンタ国王に倒れられては困る。

ターピ ……。

パリー お願いだ、これは私たち女の未来がかかっているんだ。だからあなたには、今までの噂を広めるのをやめてもらって、モンタ国王、タギ一族に有利な、そしてキュレト一族に不利な噂を広

めてもらいたい。わかるね、私たちのためだ。

ターピ それはできない。

パリー 頼む、この通りだ。

ターピ あなたの夢は立派だけど、やっていることは悪だ。

パリー ……、(エスカラに目で合図する)

エスカラ、ターピを殴る。

パリー 大きな目標の達成のためには、多少の犠牲は払わないといけないんだ。頼む。

ターピ 断る。

エスカラ、ターピを何度か殴る。

パリー 頼む。美しい国ベロナのためだ。

ターピ なにが美しい国だ。私は知っている。戴冠式の日の夜、お前たちは3人のキュレト支持派を捕まえこの地下室に監禁し、密かに殺している。それがお前らの言う美しい国か。

エスカラ ……。

パリー ……最後にもう一度きく。私の夢を叶えるのを手伝ってくれないか。

ターピ ……悪に手は貸せない。

パリー ……エスカラ、もつと寒い部屋に連れて行ってやれ。

エスカラ 行くぞ。

エスカラ、ターピを連れていく。



少ししてターピの叫び声がきこえる。

パリー このままでいいのか、それとも……いや、正義を実現するために悪をも利用することが必要だ。キュレト二世は見放されボルトは死に、ロンは追放された。私だ。次に国王になるのは私。そのため今は耐えろ。もう少しだ。もう少し。

エスカラが戻ってくる。

パリー 始末したか。

エスカラ あ、あ、ええ、

パリー どうした？

エスカラ いえ、あの、

パリー 始末できなかったか？

エスカラ いえ、間違いなく、

パリー 顔が青いぞ。

エスカラ その、やつ服からこれが。(キュレト一族の証を出す)

パリー ……。

エスカラ あの、変装していたようで、

パリー ……やつだ、キュレト姉妹の姉ターピだ。なぜ？

エスカラ どうします？

パリー 落ち着け。

エスカラ しかし、

パリー 落ち着け！ 国王陛下に忠誠を尽くしてきた私だ。陛下はお許しになる。私がいなくなればあの人はやっていけない。怯えるな。なんとかなる。ひとまず報告だ。形だけの裁判を受けるこ

とにしよう。

パリーとエスカラは去る。

## 第四幕

### 16. モンタの邸の一室

モンタ国王が現れる。

モンタ 全く大変なことをしてくれた。この短い間にキュレト一族が二人死んだ。どう振る舞うのが正しい？ あの女、せっかく団長として認めてやっていたのに余計なことをしてくれた。

グレゴが現れる。

グレゴ 陛下、ロン王子の友人が訪ねてきたようです。

モンタ 今は気分がすぐれない。

グレゴ しかし陛下にとって大事な話とかで、

モンタ ……そうか、通してやれ。

グレゴの案内で、ベーリオが現れる。

ベーリオ モンタ国王陛下。

モンタ ああ、キミはロンと仲良くしてくれていた、

ベーリオ ベーリオでございます。

モンタ やつも長い間留学のため国を出て行ってしまった。

ベーリオ 両足がもげたような気持ちです。

モンタ なに、じきに帰ってくる。

ベーリオ それより陛下におききたいことが、

モンタ なんだ。

ベーリオ 学校を建てるという噂を聞きまして、

モンタ ああ、そうだ、

ベーリオ その教育者とはもうお会いに？

モンタ ああ、素晴らしい教育理念を持った誠実な男だった。

ベーリオ 誠実な、ですか？

モンタ そうだ。俺の美しい妻もいたく感動していた、

ベーリオ 美しい、ですか？

モンタ 言いたいことがあるのか？

ベーリオ いえ、しかし世の中には知らない方がいいことも、

モンタ 何が言いたい？

ベーリオ 国王陛下はお姫様のことを愛しておられますか？

モンタ 当然だ。この世の何よりも愛している。

ベーリオ ではこの話はお聞かせしない方がいいようです。

モンタ 何を隠している？ 言ってみろ。

ベーリオ しかし、私の推測は外れているはず。あつてはなら

ないことですから。

モンタ なんの話をしているんだ。

ベーリオ お姫様は、何度か教育者のもとへ出向いているのでは？

モンタ ああ、最近をよく。

ベーリオ 二人きりで？

モンタ そういうこともあるだろう。何が言いたい？ あいつが俺

以外の男と関係を持っていると？

ベーリオ いえ、そんなことあつてはなりません。

モンタ 言っておくが、俺があいつを深く愛しているのと同じくら

い、あいつも俺を愛している。

ベーリオ その通りです。そしてその前は、今は亡きタギ二世を愛していた。

モンタ 何が言いたい？

ベーリオ いえ、どれだけ深く愛していても、また別の人を愛することもあるというだけで、

モンタ もし根拠なく言っているのであれば容赦はしないぞ。

ベーリオ 私とてこんな話はしたくはありません！ しかし、いや、このことを言わなければいけないのか！

モンタ なんだ、何を知っている？

ベーリオ 以前ロン王子から聞いた話なのですが、お妃様は赤いハンカチをお持ちですね？

モンタ ああ、俺があいつに贈ったものだ。旅行先で手に入れた、その土地にしかない生地で作られたものだ。

ベーリオ それは今もお持ちで？

モンタ そのはずだ。

ベーリオ では私の目の錯覚でした。別の人間がそのハンカチを持っていたように見えたもので。

モンタ 誰だ。

ベーリオ ああ、やはりそうでしたか。

モンタ なんだ。

ベーリオ 街中で噂になっていることですが、国王陛下だけが知らないのですね。

モンタ どんな噂だ！

ベーリオ お妃様は、その教育者を次の国王にする準備をしているという噂です。もちろんただの噂で事実無根のデタラメですが、しかし、万が一にも、

モンタ おい、サムソ、グレゴ、いるか？

サムソとグレゴが現れる。

サムソ はい、

グレゴ なんでもございましょう？

モンタ おいお前ら、妻について、今街で何か噂が広まっていたりしないか。

サムソ 噂、ですか？

グレゴ どうでしょう……？

ベーリオ (モンタに小声で) 国王陛下の前で言えるはずがありません。

モンタ いやいい。お前らに調べてもらいたいことがある。

サムソ・グレゴ なんなりと。

モンタ ある、教育者の男がいるんだが、

サムソ あの教育者ですね。

モンタ そうだ。やつが赤いハンカチを持っていないかどうか調べてほしい。ペロナにはない生地できている。見ればわかるだろう。調べ出せれば、お前たちを俺の身内として迎え入れてやる。

あ、いやグレゴ、お前は残れ。

サムソ サムソです。

モンタ サムソか、お前は残れ。

サムソ はい。

モンタ (グレゴに) 頼んだぞ、グレゴ、違う、サムソ。

グレゴ グレゴです。

モンタ 行け。

グレゴ はい。

グレゴは去る。

ベリーオ 全て私の推測で、噂はただのデタラメだということを感じればかりです。

マーキュ王妃が現れる。

マーキュ あなた、

ベリーオ それでは私はここで、

モンタ ああ、礼を言う。

ベリーオは去る。

モンタ 寝不足だろう？ 横になつていると言ったじゃないか。

マーキュ どうしても眠れない。息子が夢に出てきて。

モンタ 目に布をかけると眠れるときいたことがある。あの赤いハンカチを使うといい。

マーキュ ああ、そう、あなたあの赤いハンカチを知らない？

モンタ なに？ どういう意味だ？

マーキュ 見つからないのよ。落としたのかしら。

モンタ 持っていないのか？

マーキュ ごめんなさい。でもこの邸のどこかだと思うわ。

モンタ なんてしらじらしい！

マーキュ なに？

モンタ そんなことが、ばかな、そんなことが。キュレト二世の声 モンタ国王！ モンタ国王！  
モンタ 話はあとだ、ひとまず横になっている。

マーキュは去る。

キュレト二世が現れる。

キュレト二世 モンタ国王、今回の一件、私はどこに怒りをぶつけ

ればいい？

モンタ キュレトか。

キュレト二世 甥に続いて、娘まで……もうこのまま黙っているわけにはいかない。

モンタ 私もあなたと全く同じ気持ちだ。だがまず落ち着いてくれ。

キュレト二世 今すぐここで審判を下してください。連れてきてい

ます。前へ出る。

パリー、エスカラが現れる。

エスカラ (小声で) 団長。

パリー (小声で) 安心しろ、形だけの裁判だ。

パリーは真ん中へ。

モンタ わかった。まず事情をきこう。キュレト二世の娘を死に追

いやったのは、パリー団長、お前か。

パリー はい、しかしそこには様々な事情がありました、

36

キュレト二世 殺したのは貴様で間違いないんだな！

モンタ まあ、まず話をききましょう。真実を明らかにすることが大事なんですから。

キュレト二世 ……きかせてもらいましょう、その真実とやらを。

モンタ 団長、事情をきこう。

パリー このベロナの街で国の存続を揺るがすようなデタラメを吹聴して回っている者がおりまして、ベロナの名誉のため、逮捕いたしました。

モンタ それがキュレト二世の娘だったと。

パリー いえ、変装しておりまして、気がつきませんでした。

モンタ しかし、なぜ娘さんはそのようなデタラメを触れ回っていたのでしょうか、キュレト二世？

キュレト二世 私は知らない。

モンタ もしや我らタギ一族の評判を落とす、王位を奪還する狙いがあつたのでは？

キュレト二世 (モンタに近づいて小声で) あなたとは王位返還の約束をしているんだ、そんなことする必要がない。

モンタ (小声で) いいから話を合わせなさい。(パリーに) しかし、それを理由に殺すのはやり過ぎだろう。

パリー 当然少し懲らしめるだけのつもりだったのですが、彼女は武器を隠し持つており、やむをえず。

モンタ 武器を！ なるほど、(キュレト二世に) やはりあなたの娘さんはなにか悪いことを企んでいたのでは？

キュレト二世 国王！

パリー とはいえ、当然私の行いは許されるものではありません。キュレト一族の者を殺してしまうなど言語道断。甘んじて処分を

受け入れる覚悟はできております。

モンタ そうだな。よし、サムソ、首を落とす準備をしてやれ。執行は副団長、お前に任せる。

パリー あの、首を？

モンタ 覚悟はできているときいたが。

パリー いえしかし、

モンタ お前は、私の顔にどれほどの泥を塗ったのか分かっていないのか？

パリー 泥を？

モンタ 私が国王である時代に親愛なるキュレト一族が殺された。お前はこのベロナの国を汚したのだ。

パリー しかし、

モンタ お前は私に何か恨みでもあるのか？

パリー まさか。

モンタ お前はキュレト二世が国王だった時代にも自警団の団長をやっていたな。お前は俺を陥れるために、意図的にこの事件を起こしたんじゃないな？

パリー いえあの、私は自警団の団長としてその時その時ベロナの秩序を守ることが仕事ですから、それはいくらなんでも、それはいくらなんでもご勘弁を、私の行動は、全部、全部、このベロナの、そしてモンタ国王陛下の意思に沿うように行っていることでありまして、今回の件も、モンタ国王陛下のお望みどおりに遂行した結果でありまして、

モンタ 俺がいつそんなこと望んだ？

パリー キュレト一族とは知らず、殺すよう命令を、モンタ 私は、「殺してはいけないぞ」と言ったんだ。

パリー それは殺せという意味であって、今までそうやってきたじやありませんか。

モンタ お前は言葉を知らないのか。「殺してはいけない」という言葉には、「殺してはいけない」という意味しかないだろう。(サムソに) 何をしてる準備だ。

サムソは去る。

モンタ (エスカラに) 連れて行ってやれ。

エスカラ しかし、

モンタ ベロナの秩序を守れ。

パリー お待ちください。殺したのはこいつです。

モンタ 指揮したのはお前だ。

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。全編はクラク芸術堂の販売ページ(左のURL)から購入できます。ありがとうございました。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

## あとがき

この作品はクラアク芸術堂の第2回公演のため書き下ろした。わかる人はわかると思うが、この作品はウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』『ハムレット』が下敷きになっている。シャイクスピアの作品というと、演劇に馴染みのない人はついつい敬遠してしまうと思うのだが、それならシェイクスピアを今の人が楽しめるように作るとどうなるか、ということでもこの作品が生まれた。最近、完全にオリジナルでつくるよりも、名作を下敷きにした方が面白くなるのがわかったので、どうしても完全オリジナルで書きたいもの以外はなにかを下敷きに書いていこうかと思つている。

最初はみんな死んで終わりにしようかとも思つたが、『ロミオとジュリエット』も『ハムレット』も、最終的には残った人々がこれから頑張つていこうという感じの終わり方をしているので、この作品も少しは前向きな終わり方に、と思ひこのような結末になった。「世界や社会はこんな悲劇に満ち溢れている」と言つたあとで、「でも希望だつてあると思う」ということを言える世の中もいいなと思う。

僕は作品を書くときに、どちらかという個人物語を書くことが多いのだが、たまには「このような社会にいるこのような人々」というのを書くこともある。僕が今まで書いた物語のなかで、一番スケール感の大きい作品になつたのではないかと思う。僕は自分が作品を書くときは、だいたい自分と同世代くらいの人に向けて書くことが多いのだが、この作品はどの世代がみても比較的受け入れや

すい作品になつたのではないかと思う。

僕たちは、ほとんどの場合、生きていくだけであつたかしの社会に属しているし、社会にはなにかしらのルールがある。しかしルールがあつても不正ははびこるし、権力者が自分の都合のいいようにルールを曲げることもあるだろう。そんなとき僕らにできることはなんなのか。それは闘うことなのかもしれない。

この作品は400年以上前に書かれた作品を下敷きにしてはいるが、現代に通じるなにかはあると思う。この作品に触れてくれたそれぞれの人が、なにか考えるところがあればなと思つている。

2018年7月20日 小佐部明広

《上演記録》

クラアク芸術堂第2回公演『ペロナの悲劇』

【キャスト】

モンタ国王	松橋勝巳〈客演〉
マーキュ王妃	脇田唯〈客演／POST〉
ロン王子	中村雷太
キュレト二世	宮沢りえ蔵〈客演／大悪党スペシャル〉
ターピ	佐藤智子
ジュリ	八木友梨
ボルト	高橋寿樹
ベーリオ	有田哲
パリー	山木眞綾
エスカラ	伊達昌俊
レスロ／役者1	信山E絃希
サムソ／役者2	檜山真理世
グレゴ／役者3	田邊幸代
座長	小佐部明広

【スタッフ】

作・演出 小佐部明広  
照明 高橋正和  
音楽 山崎耕佑 (劇団 fireworks)  
演出助手・音響 牧野あすか  
舞台美術 米沢春花 (NPO法人コンカリーニョ)  
衣裳デザイン 松島みなみ

衣裳制作 松島みなみ 森瑞紀 佐藤春菜 榎本ちひろ

牧野あすか 丹野早紀 大川有沙実

小道具 大川有沙実

宣伝美術 八十嶋悠介 (マイペース)

制作 小川しおり (劇団 fireworks)

主催 クラアク芸術堂企画運営委員会

後援 札幌市

【日程】 2018年9月28日 (金) 16時／20時

9月29日 (土) 12時／16時／20時

9月30日 (日) 12時／16時

【会場】 扇谷記念スタジオシアターZOO

【料金】 一般前売2,500円 DM会員2,000円

25歳以下前売1,500円 高校生以下500円

当日券各500円増

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。



《『ピロナの悲劇』の上演について》

「前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合は、脚本使用料は**無料**です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラアク芸術堂企画運営委員会まで。

【クラアク芸術堂企画運営委員会】

clark.artcompany@gmail.com

2018年9月23日 第1刷制作

小佐部 明広 (こさべ あきひろ)

1990年、札幌生まれ。北海道大学法学部卒業。2011年に「劇団アトリエ」を結成し、2017年に「クラアク芸術堂」に組織変更。人間の暗部ややりきれない部分を書くことが多いが、コメディやナンセンス、ファンタジーなど作品のジャンルは多岐にわたる。2017年から平仮名名義「こさべあきひろ」としての執筆活動も開始。『瀧川結芽子』で若手演出家コンクール2015優秀賞。

クラアク芸術堂ホームページ

<http://www.clark-artcompany.com>